

獅子組のコロナ禍の活動における
アンケート調査結果報告書

令和4年3月

1 調査概要

■調査の目的

コロナ禍で獅子舞奉納が中止になった経緯や、再開したきっかけについて、また、コロナ禍でこそ出来た工夫や取り組み等について、共有することを目的にしたアンケート調査です。

■調査対象

- ・文化庁助成金で用具修理した獅子組
- ・コロナ禍の取り組みについて『文化遺産シンポジウム』で発表する獅子組

■調査方法

Google フォームにてアンケート

■調査期間

令和4年1月21日上記フォームを公開、2月7日を回答期限として回収

■回収状況

36団体

■調査項目

- 【Q1】獅子組名
- 【Q2】奉納神社
- 【Q3】構成人数
- 【Q4】獅子組の歴史
- 【Q5】コロナ禍の活動の変化
- 【Q6】「祭り」以外に獅子舞を続けていく方法や工夫
- 【Q7】地元の「祭りでの奉納」の中止を決定した時期とその経緯
- 【Q8】令和4年度の「祭り」が中止になった場合の他の獅子舞活動
- 【Q9】コロナ禍の獅子舞活動について実施した工夫

2 調査結果

Q1～3 獅子組名・奉納神社・構成人数

獅子組名	奉納神社	構成人数
産宮獅子保存会	産宮神社 富田神社	27
女木獅子組	女木住吉神社 他	10
中新名獅子組	春日神社	15
安川・長閑獅子組	八坂神社	20
朝倉獅子連	三木町田中雷八幡神社	約 30
上法南獅子組	八坂神社、王子神社	12
高屋南獅子保存会	高家神社、塩竈神社、松井春日神社	約 25
内濱太鼓台獅子組	坂出八幡神社	20
赤門筋獅子組	丸山八幡宮	約 40
上小原獅子組	春日神社(多度津町山階)	25
葛谷獅子組	藤尾八幡神社	10+女性方
天神獅子組	造田神社	15
多和北部獅子組	宇佐神社、多和金毘羅神社	20
夷獅子保存会	八坂神社	40
東かがわ市白鳥虎頭の舞保存会	白鳥神社	20
飯神社獅子組	飯神社	25
坂元神社獅子組	坂元神社	20
一宮中筋獅子組	田村神社	約 50
植松獅子組	宇佐八幡神社、奥津神社	20
力石、公城獅子組保存会	川東八幡神社	40
雪三北獅子組	高松市 石清水八幡神社	18
明見獅子組	岩田神社	15
上川の内獅子舞保存会	木太八坂神社	約 20
大蓑彦神社獅子連	大蓑彦神社	31
丸岡原獅子組	冠纓神社	15
西原獅子組	桜木神社	約 55
東う谷若連中	宮處八幡宮	8
臼井獅子組	大野石清水八幡神社	約 30

獅子組名	奉納神社	構成人数
杣尾獅子保存会	東植田八幡神社	42
船岡大獅子保存会	ちきり神社	42
川東尺経獅子	横内八幡神社	60
天枝獅子保存会	雷八幡神社	約 20
名部戸獅子保存会	船越八幡神社	27
中組獅子保存会	造田八幡宮	20
西上円座獅子組	廣旗神社	20
郷東獅子保存会	香東神社、岩田神社	未回答

Q4 獅子組の歴史

〈産宮獅子保存会〉

明治後期、地元の鴨居忠次郎氏より獅子舞道具一式を寄贈され、大道地区の有志一同により始まった。舞は、雄獅子と雌獅子による夫婦獅子。夫婦が互いに寄り添い仲睦まじい様子を表現。獅子の前には曲打ちがおり獅子を操る。

〈女木獅子組〉

正確には不明だが 60 年前には存在したといわれている。

〈中新名獅子組〉

流儀は見立で曲打ちが付く。昭和初期にはじまったとされ中断期間があったものの継承している。

〈安川・長閑獅子組〉

特徴は正方形に獅子舞を行う。

〈朝倉獅子連〉

約100年前からだといわれている。高松市の東植田地区の獅子舞を伝承(三木町地区等のボタンくずしとは異なる舞い)している。

〈上法南獅子組〉

明治時代から伝わったとされている。

〈高屋南獅子保存会〉

坂出市高屋町に古くから伝わる貴重な郷土芸能の保存と世代間の交流の場としての役割を果たしている獅子舞を後世に継承すべく、昭和 46 年に保存会として立ち上げた。使い方は曲と五段の 2 種類で、曲は若獅子として勢い良く活発に使い、太鼓打が二人付く。五段は壮年の獅子で様々な芸を持つ味のある獅子。

〈内濱太鼓台獅子組〉

昭和 30 年代中頃に中断されていたが、昭和 40 年代後半に有志で復活されたといわれている。

〈赤門筋獅子組〉

不明。

〈上小原獅子組〉

正確な結成時期は不明だが明治初期には活動していたといわれている。昭和 30 年代に一度解散したが、昭和 40 年代に復活。舞や道具をそのまま継承した。舞に流儀名はなく昔ながらの舞。獅子は神社に奉納する 6 組の中で唯一の雄獅子。木に登ったり池に入ったりするヤンチャな獅子。お囃子は太鼓打ち 2 名、半太鼓 1 名、鉦 1 名。祭礼時はダカ(天狗)2 名と幟と吹き流しが付く。

〈葛谷獅子組〉

牡丹くずし。

〈天神獅子組〉

未回答。

〈多和北部獅子組〉

詳細は不明。牡丹くずし。

〈夷獅子保存会〉

詳細は不明。牡丹くずし。

〈東かがわ市白鳥虎頭の舞保存会〉

300 年。

〈飯神社獅子組〉

未回答。

〈坂元神社獅子組〉

一度は解散して、50 年程前に復活したといわれている。

〈一宮中筋獅子組〉

戦後に香南町の冠纓神社で奉納している獅子組かまら、ねぜり五段を学び現在まで伝承されてきた。特徴は、親獅子と子獅子の2頭で舞い、幼稚園児の曲打ちが付いている。

〈植松獅子組〉

木彫りの本獅子と呼ばれる頭を使用しての舞。特徴は振り手の交代頻度の多さであり、早ければ 30 秒程で交代しないと身体がついてこなくなるほど疲弊する。

〈力石、公城獅子組保存会〉

百数十年前。ねぜり五段。

〈雪三北獅子組〉

大正初期より始まったとされているが詳細については不明。頭の作成年は不明だが、昭和初期から何回も修理を重ねて現在に至る。「丸亀形」との先々代の宮武嘉吉獅子頭店の宮武店主から伝えられている。赤い漆塗りの雌獅子、踊りは「ねぜり五段」。油単は、深紅丹後ちりめん「右下がりの巴紋」を白く大きく一紋だけシンプルなもの。戦前にもあったが戦後一時期に巴御前の武者絵もあり、50 年前に先代の「巴紋」を復活し、現在の 3 代目は 10 年前に新調した。

〈明見獅子組〉

始まりは不明。流儀は喜多流。昭和 52 年に復活し現在に至る。油単は、昭和 29 年まで使用された牛若丸と弁慶。昭和 29 年～昭和 62 年虎と龍、昭和 62 年～平成 30 年義経稲穂の図が残っている。平成 30 年～虎と龍(図案:岸雅裕、製作:瑞光苑 森末商店)を使用している。

〈上川の内獅子舞保存会〉

獅子舞の奉納は昭和の初期くらいから始まり、現在に至る。舞の流儀は「牡丹くずし」。2頭の雌獅子による躍動感のある舞が特徴である。

〈大藁彦神社獅子連〉

延喜式内社大藁彦神社にあり 300 年位の歴史、ゴタンクズシで一人演舞がある(猩猩の舞)兎に角暴れ獅子。振りの鋭さが要求される。太鼓が連の演舞を仕切る。その為、長老に獅子頭の持ち方振り方の伝授、それによって頭の高さを揃えた・太鼓のブチの持ち方打ち方構えを伝授してもらった。

〈丸岡原獅子組〉

ねぜり五段。夫婦獅子。

〈西原獅子組〉

約二百年前の文化年間にはすでに結成されており、桜木神社に奉納する獅子舞では一番古い獅子組と祭礼控帳にある。活動の中断はあったが復興し、供口を中心とする子ども世代から青年・中堅・老年で構成され、地区の中心的な活動団体として現在に至る。

〈東ラ谷若連中〉

昭和初期から始まり、一時期途絶え、昭和 63 年に復活し現在に至る。曲は平獅子。

〈臼井獅子組〉

昭和初旬。

〈杣尾獅子保存会〉

制作時期は明治中期。獅子や舞の特徴は女獅子で太鼓主導の牡丹くずしと平獅子の中間で少しテンポがゆっくりの舞。平成 10 年頃から子獅子、孫獅子が加わり親子三代獅子の舞となっている。

〈船岡大獅子保存会〉

1854 年に大獅子を製作。鉦と太鼓の音に合わせて舞う大獅子と子供の曲打ちの踊りが伝承されている。

〈川東尺経獅子〉

1964 年に結成。

〈天枝獅子保存会〉

親子獅子舞が特徴。

〈名部戸獅子保存会〉

県無形文化財の家の浦二頭獅子舞の舞を習い、明治以前より活動している。

〈中組獅子保存会〉

未回答。

〈西上円座獅子組〉

ねぜり五段。獅子の一生を舞っている。

〈郷東獅子保存会〉

起源は不明だが戦争の関係で長らく休み、戦後も復活していたがその後、また、長らく休止状態だった。1975年に御神楽と獅子を復活し今日に至る。

Q5 コロナ禍の活動の変化

- 令和2年度は地元総代により神事のみで奉納は中止。獅子舞をしたいとの意見もあったが安全面を優先した。令和3年度も奉納の話が上がったものの最終的に中止した。産宮神社の大祭の1週間前から本堂に2頭の獅子舞展示を行った。安産祈願や御礼参りの参拝者から獅子を見られて良かった、子供と一緒に写真が撮れた等の意見が聞けた。ただ、2年間獅子から遠ざかると獅子舞に対して熱が冷めている部分もある。令和4年度は色々な事を考慮して奉納を考えている。
- コロナ以降、子供たちの感染リスクをなくすため、キョウクチ(女木島では獅子なぶり)を中止している。奉納前の練習もできる限り減らし、県外のメンバーは自粛した。獅子舞奉納時は、最低人数にて短縮版で奉納した。
- 令和2年度から2年間ほとんど活動ができなかった。
- 令和2年度は秋祭りの参加は自粛し日にちを変え自主責任で奉納演舞した。令和3年度は秋祭り当日に自主責任で奉納演舞した。
- 令和2年の秋の大祭から獅子舞は中止。他の獅子組にも意見を聞き3年も中止した。
- 令和2年度は獅子舞奉納を中止したが、令和3年度は神事の際、獅子頭、油単、御幣、鈴等を組んだ状態で氏神様の前に据えて奉納と言う形態を取った。神事後、宮司、宮総代等に了解を得て、最小限の人数(5名程)で非公式だったが獅子舞奉納(1曲15分程)を行った。勿論、ワクチン接種、検温、消毒、マスク等(使い手2名はマスクなし)の感染対策を行った上で獅子舞奉納を行った。

- コロナ禍で2年間奉納していなかったが、令和4年は年明けとともに獅子舞を奉納した。
- 神事の奉納および演舞は全て中止。
- コロナ禍1年目も2年目も獅子舞奉納は中止となった。中止期間は、道具のメンテナンス、獅子頭新調、奉納神社参拝、獅子舞の手引書作成、郷土研究、ウェブサイト運営などを行っている。
- 令和2年度の祭りは神社で3組のみ奉納し、令和3年度は神事のみで奉納獅子は行っていない。令和4年元旦は2組にて奉納した。
- 地元では高齢者も多いため、対策をしても、万が一に感染した場合、重症化になってしまうリスクを考え反対の意見が大多数だったため令和2年度から活動自粛。
- 2年連続で中止(他6団体)
- 2年間活動を行っておらず、今年の春祭りも危うい状況。
- コロナ禍で練習も奉納も中止している。
- 令和2年、3年度と共にコロナ禍のため活動を自粛し、練習も神社への奉納も行っていない。ただ令和3年度は宵祭の日に田村神社に獅子組から15名の代表者(子供も含むしている)が獅子を持ち法被を着て参拝に伺った。舞いはしていない。
- 祭りは中止となったが各家を回る村使いには獅子舞奉納はしなかったが、獅子を持って皆で地区を練り歩いた。神社のみ獅子舞奉納と神事を行った。
- 秋祭りの花どりは中止。
- 令和2年、3年は地区内の他の獅子組とも確認しコロナ感染の現況を会員と協議し中止した。10月中旬からの感染状況等を協議し「獅子舞王国さぬき」へ参加した。練習は、JA香川の屋根付き倉庫、壁なしの場所を借りて3日間。演者はマスク着用の上で行った。
- 令和2年度は、祭での獅子舞奉納が中止となり頭屋でのみ獅子舞奉納を行った。令和3年度は、神事終了後に規模を縮小して獅子舞奉納を行った。

- 令和2、3年度とも神社からの要請で奉納はなく、活動を休止した。
- 令和2年度は、「祭り」について反対の声が多数あり、獅子舞奉納を中止した。令和3年度は練習は行っていないが、正月神社奉納を行う事を決意し、密にならない対策を徹底して獅子舞奉納を行った。
- 令和2、3年度の秋の例大祭は神事のみ実施され、その他の「祭り」に関するすべての行事は中止。それに伴い獅子組の行事もすべて活動を中止した。
- 令和2年、3年度ともに集会所で外部からの人間を制限し、参加者の名簿を記録、検温管理を行い練習。継承が途切れるのを懸念して自治会の荒神さん、地神さん奉納のみを行った。
- 令和2年春より活動中止。
- 令和2年、3年度ともに神社から奉納、お渡りの中止の連絡があり、総会及び練習を自粛している。令和3年度は、大獅子の頭の修繕が完了したので、コロナ対策を行い頭のお披露目会を実施した。また、地元の小学校で授業の一環として、大獅子の展示と使い方の講習を行った。
- 令和2、3年ともに活動休止。子供から高齢者まで幅広い年齢層が所属しているため対策が出来ない。
- 活動自粛。
- コロナ禍では、万が一クラスター感染等が起こった場合に責任が取れないという理由からこの2年間は練習ができなかった。
- コロナ禍の最初の年は反対の声が多く、集まれる環境ではなかったため、獅子の奉納と練習や集まりは中止した。翌年も奉納中止となりました。
- 令和2、3年の秋は練習を中止。年末は、数人集まり道具の手入れをした。
- 令和2年度は自治会、子供会と相談して全てを中止した。獅子保存会の数名で通年の開催日に自主的に香東神社は獅子舞を奉納した。岩田神社への奉納は先方からお断りの連絡があったので奉納はしていない。令和3年は自治会、子供会と相談して香東神社での神事と獅子舞とお神楽(2演目)を奉納した(関係者のみの参加)。お神楽は子供の参加が無理だったので大人が奉納した。また、コロナ明けを見越して指導者を作る為の練習を通年の秋祭り前に2週間程度、行った。岩田神社の奉納は通年よりは簡素化ではしたがお祭りを実施したので獅子舞を奉納させて頂きました。

Q6 「祭り」以外に獅子舞を続けていく方法や工夫

- 現段階では秋祭以外での演舞予定もなく、集まりも無い状態。
- 島の若者自体の人数が限られているため、子供たちや移住者などに積極的に声を掛け、伝承が途切れないように尽力している。地元に残っているメンバーが少なく、島外に出ている者が大半であり、祭り以外で獅子舞活動をするのは厳しい。
- 感染状況を見ながら可能な範囲で獅子舞活動を行う。
- 2ヶ月に1回の食事会や旅行等で交流を図っている。
- 地元の一体感を保つため定期的に練習したり、イベント参加をしたり等で地域の文化を継承していく。
- 祭あつての獅子舞。以前は丸亀お城まつりに参加していたが、お城まつりも中止となり不参加。今はそれ以外の参加は考えていない。
- 地域の祭ありきのイベント参加なので、祭で正式に獅子舞奉納が出来なければ、イベント等の参加は基本的に難しい。
- 会館に獅子頭や油単を展示して、地域で途切れることがないように工夫している。
- コロナ禍終息までの期間は、少人数での練習でも継続することが重要。
- 獅子舞を継続するためには周囲の支えが必要である。祭りの獅子舞は「儀式」であり、氏子の後援が受けられるは、祭り以外での獅子舞は「事業」となり、後援を受けるには、獅子舞の意義や価値を再認識してもらう必要が出てくる。香川県は獅子舞が盛んだといわれているが、一般人の認知度はそれほど高くないように思っている。地元の獅子舞の歴史や魅力を積極的に発信し、より多くの方に獅子舞を応援してもらえるような環境づくりが求められているのではないかと考えている。
- 「獅子舞王国さぬき」をはじめ積極的に参加したい。「獅子のだち里 三木まんて願。」にも獅子の里帰りとして参加できないかと考えている。

- あくまでも氏神様に奉納が基本であり、祭り中止の場合は獅子舞もできない。
- メンバーの減少に伴い、演舞時間の短縮や、学生でも使用できる獅子頭にするなどを検討している。
- 感性対策を万全にして、練習を行い、舞を伝承していき、「獅子舞王国さぬき」に出演できるタイミングを待ち続ける。
- 「獅子舞王国さぬき」のようなイベントがあれば積極的に参加していきたい。ただ参加したいが獅子が地区の持ち物とされる面もあり、参加したくても出来ない獅子組もあるためこのイベントを大きくして全獅子組が参加できたら新たな香川の祭りができると思っている。
- 地域小学校授業に参加し狸々の舞を復活した。
- 幸いにも若い後継者が育っているため昨年同様に実施を予定している。
- 地元のイベントや「獅子舞王国さぬき」に参加し伝統芸能を継承していきたい。
- 感染対策を万全に行いながら獅子連の集会とか神社掃除草刈りを行い、メンバーの集まりを大切に、獅子連としての活動を行い、地域の大切な文化を継承していく。子供が少ないため、地元以外の地域からの参加がある。
- 地元行事や「獅子舞王国さぬき」などの行事に参加し次世代へ継承したい。
- 神社奉納を活動の中心にしており、今のところ、祭りが中止になれば、対外的な活動することは考えていない。
- 子どもが少ないため、地元以外の地域からの参加がある。
- 獅子舞を通しての自治会の活動は、ほぼないため継承していく方法を模索している。イベントに出演することで獅子舞の質は上がっている。イベント参加することで継承する方法も良いと考えている。
- 地元は子供が少なくなり継承は難しくなっているが「獅子舞王国さぬき」などの参加できるイベントには積極的に参加し、若い衆が集まれる機会を多く作り獅子舞がなくならよう努力していきたい。

- 奉納中止に伴い2年間活動していない。3年目も中止となると、曲打ちをできる子どもの育成ができないことを懸念している。現在のところ対策は未定。
- 子供が見るため Youtube は練習に活用できる。
- 獅子舞練習が不要な、獅子舞王国での道具の展示の参加や、定期的な道具のメンテナンス(油単・太鼓を干す)時に集まることで、活動を継続しています。
- 「獅子舞王国さぬき」に参加して、獅子舞活動を続けながら、次世代へ継承していく。
- 安全な状況になるまで、獅子組としての活動は積極的にできないと考えている。
- 子どもが主なお神楽があり、中々、子供の参加が無理なので感染対策を行いながら大人が主になりお神楽や獅子の練習や元旦に香東神社と岩田神社に獅子舞の奉納を行っている。
- 特になし(他1団体)
- 未回答(他4団体)

Q7 地元の「祭りでの奉納」の中止を決定した時期とその経緯

【回答数】 36 団体

年度	R2	R3
奉納した	7 団体 <19.4%>	10 団体<27.8%>
奉納していない	29 団体 <80.6%>	26 団体<72.2%>

- 中止の決定は 9 月の総代会で中止が決定。地元では年配者が多く中止の意見が多かった。
- 祭りの数ヶ月前に社務、自治会などで集会を行った。祭り自体は中止になったが神事と獅子舞は時短で開催することに決定。マスク着用、手消毒等感染対策を万全にして実施した。
- 祭り 1 ヶ月前の宮総代会で中止決定された。
- 宮総代の協議で春に中止が決定。
- 令和2年度は自粛ムードが高かったため中止した。令和3年度は神社側と話し合い本祭り当日に主責任で演舞を行った。
- 大祭は 9 月末(王子神社)、10 月第二土日(八坂神社)とあるが、練習の時期を考え、8 月に中止決定。総代は問題提起を行い、各獅子組が中止を決断した。
- 令和 2 年度は 8 月の宮司や総代等の打合せで中止決定、中止勧告を受け奉納を中止した。令和 3 年度は 8 月上旬に獅子組から宮司、総代等に働きかけ非公式の奉納を行った。
- 9 月の祭礼委員会で中止を決定した。
- 9 月上旬、宮司より中止の連絡があった。
- 中止決定は 8 月 15 日。神社の氏子総代が集まる会議で決定た。獅子組としてコロナ対策をした上で演舞する提案は行ったものの実現しなかった。

- 例大祭前の9月頭に、神社と各獅子組代表が集まり話し合いが行われた。神社からは参加してもらいたいといわれたが、万が一のリスクを危惧する声が多く奉納を中止した。
- 宇佐神社の例大祭前に総代会を開き、獅子舞奉納の中止が決定された。多和金毘羅神社もそれに準ずる形で中止となった。
- 連合自治会の決定に従っている。
- 夏の総会の前に、会長、その他役員と相談して中止を決定した
- 神社の総代と、宮司さんが相談して決定。
- 10月の奉納に向け8月に宮総代と相談して決定している。練習中の感染や村づかいでは家の中に入るためソーシャルディスタンスが保てないと判断し中止を決定した。
- 令和2年、3年度ともに、お盆頃に獅子組のメンバーと話し合いをして、中止を決定。
- 神社から中止要請があった。
- 獅子舞奉納は、継続した。過去も中止したことがない。
- 同じ地区の中でも、自治会とは無関係な獅子舞が大好きメンバーの集まりの組のため、自主判断で中止を決定した。
- 自治会からの連絡を受け獅子舞奉納を中止した。
- 秋季大祭前の神社、総代から奉納の中止要請があり、中止した。
- 2年前は大祭前に石田神社総代(大藁彦神社総代はなにも言わなかった)から奉納の中止勧告があり中止した。しかし、今年の正月は獅子連から神社総代に奉納することを伝えた。
- 例大祭前に神社、総代から「祭り」中止の通知を受け、獅子組で協議の結果、奉納の中止を決定した。
- 神社から祭りを中止する連絡があった。

- 総代会が機能していないため各自治会の獅子組の判断ではあるが、各々の獅子組の判断は 8 月頃の判断だった。
- 神社の総代会でコロナの時期は中止すると連絡があった。
- 8 月末に神社から連絡があり、役員会を開いて中止を決定、地域住民に文書で連絡をした。
- 神社総代会が終わった 7 月末から 8 月上旬に判断した。
- 神社より獅子舞の奉納は獅子組の判断に任せるとのことだったが、感染拡大防止のため自粛した。
- 自治会と協議を行い、7 月末には中止が決定した。
- 例大祭前に代表者会議にて、奉納の中止を決定した。
- 神社総代会で秋祭りは神事のみと決定されたため中止。
- 自治会や子供会の相談。
- 未回答(他 1 団体)

Q8 令和4年度の「祭り」が中止になった場合の他の獅子舞活動

【回答数】36組

祭り以外の活動予定	
活動予定あり	17組 (47.2%)
活動予定なし	0組 (0.0%)
未定	19組 (52.8%)

- 「獅子舞王国さぬき 2022」に参加予定。年末年始は産宮神社で奉納を予定している。
- 協議して実施し、他にイベント等も参加していく予定。
- 中止勧告を受けた場合は協議のもと最少人数で非公式の奉納を行う。
- 計画はないが、子どもへ受け継ぐための練習はそろそろ開始したいと考えている。
- 氏子への回覧を予定している。地元の獅子舞の歴史や価値などを伝え、獅子舞保存への意識を高める。また、子どもにとって獅子舞は地域コミュニティの柱のひとつである。獅子舞はできなくても若者が交流できる場は新設したいと考えている。
- 「獅子舞王国さぬき」のようなイベントに参加したいが、現実的にコロナ禍ではメンバーが揃わない。
- 「獅子舞王国さぬき」に参加予定(3団体)。
- 連合自治会の決定に従っている。
- 収束までは計画していない。
- 自身の地区のみだけでも獅子舞奉納は行う予定。

- 祭の獅子舞だけではなく各行事を行っている。新年会、花見、神社周辺草刈り 2 回、地区の一日旅行、ドジョウうどん決起会。あとはイベント参加(農協際・この会)等です。集まりについては都度、幹部会議で決定。但し、草刈りは行っている。
- コロナの状況を考慮して様々な行事に参加し獅子舞で地域を盛り上げていきたい。
- 2年間ブランクになったので、何らかの方法で伝承・養成を行っていきたい。
- 現在のところ特に考えてはいないが、強行での奉納も考えている。
- 特に考えていないがイベント等には積極的に参加する。
- コロナの感染状況によるが、可能であれば「獅子舞王国さぬき 2022」への参加も検討したい。
- 昨年と同様に「獅子舞王国さぬき」等のイベントに参加するが、展示のみになる予定。
- 安全な状況になるまで、特に計画はなし。
- 令和 3 年と同様な対応。
- 現時点では未定(他 8 団体)
- 特になし(他 5 団体)

Q9 コロナ禍の獅子舞活動について実施した工夫

- 全体で集まる機会はなかったが一部で話し合いを行った。会員の中の温度差は予想以上にあった。
- 練習回数を減らし、県外メンバーは不参加とした。
- 晴れた日の野外で練習した。
- 換気の徹底、マスクの着用をした。組内では感染者は出なかった。
- 祭がなく、神事のみのため獅子保存会自体の活動が休止状態である。世話役のみの打合せのため、電話や LINE、少人数での短時間で打合せを行った。今年度行ったような形態での奉納は、何もしないよりはコロナ禍でも氏神様への獅子奉納を継続している実績を残すで、地域、獅子保存会員へ意識付けができる。2、3 年も獅子保存会の活動を休んでいると生活基盤の変化、進学、就職等で活動を再開する際に、人が集まらない可能性があること、新規会員の勧誘も出来ていないことがあり会員数が増加しない。また、地域の獅子離れが進むのではないかと危惧している。コロナが終息したらコロナ前の様な形で獅子保存会活動を再開できるように、少しでも地域と保存会員を繋ぎ止めておきたいと言う思いがある。
- 祭り当日に、虫干しを兼ねて太鼓台を組み立て、地域の人たちに 2 年ぶりにお披露目した。
- 主にインターネットで情報交換している。また YouTube にアップした動画と併せ手引書を作成し、集まらない状況でも稽古ができる環境作りを行った。祭りが無い分、時間に余裕がある今だからこそ出来ることを考え準備をしている。
- 昔の先輩方の獅子舞のビデオを DVD に焼き直し練習した。
- 世話役の会合のみ実施。
- 自主練を行った。
- 感染状況を考慮しながら計画。
- マスク着用、手指消毒等の感染対策を行い練習。

- 練習が出来ないため、竹藪に入ってブチ造りをした。また新入会員の勧誘した結果、23、24 才の若手が入会した。
- 主要メンバー間で意思疎通を図るべく継続して連絡を取り合っている。
- 練習時のアルコールを禁止。
- 獅子舞の練習は、主に曲打ちの踊りがメインになり、子供が 20～30 人集まる。準備のために地域の協力も不可欠。感染リスクを考えると練習には踏み切れなかった。
- 練習禁止のため何もできなかった。
- 例大祭への奉納が中止となり笠揃え(自治会内の各家庭へ獅子舞を奉納する事)も出来なくなったが、例年笠揃え時に渡していた「奉納のお札」に挨拶文を添えて自治会内の各家庭へ配った。
- 過去の動画などを使い家庭で子どもに獅子を教えている。
- 指導者育成のための練習を行った。
- 実施していない。自粛。(他 11 団体)
- 未回答(他 3 団体)